

# 平成27年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立久世中学校 )

## 1 平成27年度 重点評価項目

確かな学力(家庭学習の習慣化・読書の習慣化)・豊かな心(規範意識の向上)

## 2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	分析(成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価日	評価者(いざれかに○)
1 確かな学力	授業改善	・三校合同授業研究会 ・公開授業週間(6/11月)	・授業がわかりやすいこと	・学年が上がるにつれ、ニーズ度が高い。	⇒	・授業改善は十分とは言えず、教科、学年によって取組の差が出てきている。 ・「家庭学習ノート」の取組は定着しつつあるが、家庭学習の習慣化まで至っていない。 ・学年が上がるにつれ、読書時間が少なくなっている	○学習において毎時間の「学習課題」を示し、「まとめ」を的確に行い、「振り返り」で評価することを徹底していく。 ○「家庭学習ノート」の取組は定着しつつあるが、家庭学習の習慣化まで至っていない。 ○「学力分析と対策シート」を活用したPDCAサイクルの取組を進めてほしい。
	家庭学習の習慣化	・学力向上プランに家庭学習課題を設定 ・家庭学習ノートの取組	・家庭で1時間以上学習	・各学年、ニーズ度が一番高い。			○自學自習時間の増加など家庭学習の定着を目指し、保護者の理解と協力を得るため、PTAと連携した支援を進みたい ○地域の施設である久世ふれあいセンター図書館と連携した読書活動を推進していく。
	読書の習慣化	・朝読書推進 ・図書室利用の推進	・朝読書に集中すること ・学校外で読書すること	・朝読書は定着してきたが、読書時間は増加していない。			
2 豊かな心	自己有用感の育成	・ふれあいひろば ・地域での奉仕活動	・事前、事後アンケートの振り返り	・各行事に対して満足している。	⇒	・各行事の振り返りの時間を十分確保できなかった。 ・社会性変容調査における自己有用感、自己肯定感など自尊感情は十分高まっている。 ・教科化に向け、これまで以上に道徳教育の充実を図ることにより、道徳性を育てる。	○子どもたちが落ち着いて学校生活を送っている様子が伺える。より子どもたちの自己有用感を高めるため、ピア・サポートの取組を推進していく。 ○小学校児童会と合同のあいさつ運動や合唱祭参加などピア・サポートの取組を推進していく。また、ピア・サポートについて保護者の理解と協力をさらに得るための方策を模索していく。
	規範意識の向上	・生活委員を中心とした、ペル着点検の取り組み ・あいさつ運動	・気持ちよく挨拶する ・学校や社会のルールを守る	・「あいさつ」「ルールを守る」とも実現度は高い。			
	豊かな心の育成	・地域でのカエル塗装活動 ・チャレンジ体験	・思いや考え方をわかりやすく伝える ・夢や目標をもつ	・ボランティア活動など積極的な行動まで至っていない。			
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	朝ごはん・睡眠時間の確保の呼びかけ	・朝ごはんを食べる。 ・7時間以上睡眠時間をとる。	・朝食の喫食率は75%。 ・睡眠時間が7時間以上は65%。	⇒	・朝食の喫食率、十分な睡眠時間とも85%を目指す。 ・教科とも連携し、情報に左右されず、正しい知識を身に付けさせたい。	○望ましい生活習慣を自ら実践する力を育てるとともに家庭、地域との連携を図る。 ○基本的な生活習慣の確立に向け、校区の保育園、小学校、PTAと連携した取組を推進していく。
	保健教育の充実	薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。			○朝食の喫食率や内容の充実など基本的な生活習慣の確立を目指し、久世PTA連合理事会と連携して支援をしていく。
4 独自の取組	小中一貫教育の推進	・三校合同授業研究会の実施 ・久世学区合同教育課題研修会の開催。 ・小中合同教科主任会の開催。	・三校合同授業研修会の実施回数。 ・久世学区合同教育課題研修会の実施。 ・小中合同教科主任会の開催。	・年3回の授業研修会の実施。 ・外国語活動と英語の授業研修会を実施できた。 ・小中合同教科主任会の実施。	⇒	・年度初めに三校合同研修会を実施し、成果と課題を共有できた。また、「あいさつ」は定着しつつある。 ・学年主体でHPの更新を行っているが、更新回数の頻度に顕著な差が出ないよう共通理解を図る。	○久世三校の行事や取組などを見ると、小小連携を基盤とした小中一貫教育が推進されていることが実感できる。
	情報発信の充実	積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数	年間34367回のアクセス数(昨年比約-3300)			○「久世の子は久世で育てる」という風土が学校だけでなく、保護者や地域に定着しつつある。学校運営協議会としてどのような支援ができるのかこれからも議論していく。

# 平成27年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定</li> <li>・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施</li> <li>・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">自己評価</th> </tr> <tr> <th>評価日</th><th>平成28年2月26日</th></tr> <tr> <th>評価者・組織</th><th>学校評価支援委員会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <th>分析 (成果と課題)</th><th>自己評価に対する改善策</th></tr> </tbody> </table>		自己評価		評価日	平成28年2月26日	評価者・組織	学校評価支援委員会	分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学校関係者評価</th> </tr> <tr> <th>評価日</th><th>平成28年3月4日</th></tr> <tr> <th>評価者(いずれかに○)</th><th>学校運営協議会</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <th>学校関係者評価による意見</th><th>学校運営協議会による改善に向けた支援策</th></tr> </tbody> </table>		学校関係者評価		評価日	平成28年3月4日	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会	学校関係者評価による意見	学校運営協議会による改善に向けた支援策
自己評価																									
評価日	平成28年2月26日																								
評価者・組織	学校評価支援委員会																								
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策																								
学校関係者評価																									
評価日	平成28年3月4日																								
評価者(いずれかに○)	学校運営協議会																								
学校関係者評価による意見	学校運営協議会による改善に向けた支援策																								
1 確かな学力	授業改善	・三校合同授業研究会 ・公開授業週間(6/11月)	・授業がわかりやすいため	7月と比較し、大きな変化は見られなかった。	⇒	・わかりやすいと生徒が感じられるような授業の実施を目指し授業改善にさらに取り組んでいく必要がある ・目的意識をもった学習を意識させて行く必要がある ・校外での読書に課題がある	・来年度は、公開授業週間を見直し、一人一回研究授業を行うことから授業改善に取り組む。 ・おすすめの本の紹介、図書館の利用方法、啓発ポスターなど文化委員会と連携した取組をすすめる。	○授業改善、家庭学習の習慣化、読書活動の推進など保護者の方に協力していただける取組の中で、どのような取組が有効なのかしっかり発信していきたい。 ○アンケート項目の再検討を。	○学力向上のため、保護者の方に協力していただける取組の中で、どのような取組が有効なのかしっかり発信していきたい。 ○図書館ボランティア募集についてできるだけ支援していく。																
	家庭学習の習慣化	・学力向上プランに家庭学習課題を設定 ・家庭学習ノートの取組	・家庭で1時間以上学習	3年生における実現度に向上が認められた		・生活委員会や保健委員会の取り組みは、定着してきた。 ・1, 2年生の自己有用感の高まりが低い。 ・文化祭や体育祭、合唱祭の取り組みなど、年々素晴らしい発表になってきて、学年がまとまってきた。	・比較的落ち着いた学校生活で、それぞれの取組の成果が感じられ、定着してきたが、活動時間の確保など課題が残る。 ・社会性変容調査など分析と対策を教職員で共有する。	○保育園、小学校との連携を深めるためには、達成感や成就感を持つていただけるような取組を考えればよいのではないか、取組のふり返りを大切にしてほしい。	○自己肯定感を高めるためには、仕掛けと適切な評価が重要である。理想像を意識させ、明確なアドバイスを与えることを全教職員で徹底する。																
	読書の習慣化	・朝読書推進 ・図書室利用の推進	・朝読書に集中すること ・学校外で読書すること	7月と比較し、大きな変化は見られなかった。		・朝食の喫食率は変化ないが、学年進行と合わせて睡眠時間が減少している。 ・生徒の発達段階に合わせた各種講演会などは定着してきている。	・睡眠時間、家庭学習の時間の確保を目指し、保護者、地域と連携した啓発活動を行う。	○家庭での過ごし方について、もう一步踏み込んだ取組を行うために、細かい分析が必要でないか。 ○望ましい保護者の姿を広報する機会を増やす。	○アンケート項目の再検討を行い、分析と対策をPDCAサイクルで進めよう。																
2 豊かな心	自己有用感の育成	・ふれあいひろば ・地域での奉仕活動	・事前、事後アンケートの振り返り	3年生のみ自己有用感、肯定感が高くなっている。	⇒	・目標を持ち、前向きな努力を行える集団をつくれるようになってきた。	・朝食の喫食率は75%。 ・睡眠時間が7時間以上は70%。	○久世三校の行事や取組などを見ると、小小連携を基盤とした小中一貫教育は、着実に成果をあげつつあるが、協働体制の組織化を図る必要がある。	○「久世の子は久世で育てる」という風土が学校だけでなく、保護者や地域にさらに定着しつつある。学校運営協議会としてどのような支援ができるのかこれからも議論していきたい。																
	規範意識の向上	・生活委員を中心とした、ペル着点検の取り組み ・あいさつ運動	・気持ちよく挨拶する ・学校や社会のルールを守る	「あいさつ」「ルールを守る」は徐々に出来るようになってきた。		・社会性変容調査など分析と対策を教職員で共有する。	・久世三校の共通テーマとして「あいさつ・読書・家庭学習」の定着を目指した取組を推進しているが、「あいさつ」については成果が出てきている。 ・ホームページの閲覧回数は横ばい状態である。	○久世三校の行事や取組などを見ると、小小連携を基盤とした小中一貫教育が推進されていることが実感できる。これからもしっかり連携してほしい。	○アンケート項目の再検討を行い、分析と対策をPDCAサイクルで進めよう。																
3 健やかな体	豊かな心の育成	・地域でのカエル塗装活動 ・思いや考えをわかりやすく伝える ・夢や目標をもつ	・目標を持ち、前向きな努力を行える集団をつくれるようになってきた。	・目標を持ち、前向きな努力を行える集団をつくれるようになってきた。	⇒	・朝食の喫食率は75%。 ・睡眠時間が7時間以上は70%。	・朝食の喫食率は変化ないが、学年進行と合わせて睡眠時間が減少している。 ・生徒の発達段階に合わせた各種講演会などは定着してきている。	○家庭での過ごし方について、もう一步踏み込んだ取組を行うために、細かい分析が必要でないか。	○望ましい保護者の姿を広報する機会を増やす。																
	基本的生活習慣の確立	朝ごはん・睡眠時間の確保の呼びかけ	・朝ごはんを食べる。 ・7時間以上睡眠時間をとる。	・朝食の喫食率は75%。 ・睡眠時間が7時間以上は70%。		・朝食の喫食率は変化ないが、学年進行と合わせて睡眠時間が減少している。 ・生徒の発達段階に合わせた各種講演会などは定着してきている。	・睡眠時間、家庭学習の時間の確保を目指し、保護者、地域と連携した啓発活動を行う。	○家庭での過ごし方について、もう一步踏み込んだ取組を行うために、細かい分析が必要でないか。	○アンケート項目の再検討を行い、分析と対策をPDCAサイクルで進めよう。																
4 独自の取組	保健教育の充実	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	・薬物乱用防止、非行防止、防煙教室の実施。	⇒	・年3回の授業研修会の実施。 ・外国语活動と英語の授業研修会を実施できた。 ・小中合同教科主任会の開催。	・久世三校の共通テーマとして「あいさつ・読書・家庭学習」の定着を目指した取組を推進しているが、「あいさつ」については成果が出てきている。 ・ホームページの閲覧回数は横ばい状態である。	○久世三校の行事や取組などを見ると、小小連携を基盤とした小中一貫教育は、着実に成果をあげつつあるが、協働体制の組織化を図る必要がある。	○「久世の子は久世で育てる」という風土が学校だけでなく、保護者や地域にさらに定着しつつある。学校運営協議会としてどのような支援ができるのかこれからも議論していきたい。																
	情報発信の充実	・積極的なホームページの更新	学校ホームページへのアクセス数	4月から28367回のアクセス数(昨年比)																					

## 4 総括・次年度の課題

○学力向上に向けた取組は、学力向上の兆しが見えるなどある程度一定の評価をいただいた。今後もわかりやすい授業を目指し、授業改善を推進していく。

○自己肯定感を高めるため行っているピア・サポートによるさまざまな活動の意義を再確認して、システムとして機能する方法を模索する。

○学校行事、取組の分析をしっかり行い、保護者の方が積極的に参加していただく企画を立案する。